

ちょっと立ち寄りおしゃべりサロン

市民ふれあいハートまつり
2025・11・23

参加費無料&景品あり！！

AM10:00～PM2:00

みみづくの会のデモンストレーションは

中央公民館 1F・ロビー

認知症に関わるビデオ上映あり

野田市中途失聴者・難聴者の集い
「みみづくの会」

ホームページ mimi-comm.com

連絡先：野田市春日町38-12 吉岡方

TEL：04-7129-7303

FAX：04-7127-8575 (FAX専用)

E-mail: hanbeiyoshi@jcom.zaq.ne.jp



ご存知ですか？「難聴が認知症の最大要因です」

認知症予防＝難聴対策「国の新プラン」

- ・高齢者の 約4人に1人が認知症、またはその予備軍。
高齢化の進展に伴い、認知症の人はさらに増加
- ・2012(平成24)年 462万人(約7人に1人)
⇒2025(令和7)年 約 700万人(約5人に1人)
- ・認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、
認知症の人が認知症と共に、よりよく生きていくことが
出来るような環境整備が必要。
- ・障害調整生命年という指標による分析によれば、
わが国の疾患群では、精神神経疾患のインパクトは
悪性腫瘍や心血管病を抜いて 1位になっています。



新オレンジプラン

認知症施策推進総合戦略

- ✓ 高齢者の約4人に1人が認知症またはその予備群。高齢化の進展に伴い、認知症の人はさらに増加
- ✓ 2012(平成24)年 462万人(約7人に1人) ⇒ 2025(平成37)年 約700万人(約5人に1人)
- ✓ 認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要。
- ✓ 障害調整生命年 (DALY) という指標による分析によれば、我が国の疾患群では精神神経疾患のインパクトは悪性腫瘍や心血管病を抜いて1位。

危険因子：加齢、遺伝、高血圧、糖尿病、頭部外傷、喫煙、
難聴
防御因子：運動、食事、余暇活動、社会的参加、認知訓練、活発な精神活動 (コミュニケーションツールとしての「補聴器」)



あなたの聴こえの確認・試聴 & デモンストレーション



難聴者用スピーカー Moby と ヒアリングループシステムの利用方法

野田ガスホールの客席床面にあるヒアリングループや、
野田市社会福祉協議会、南コミセンや北コミセンに備付けの
ループシステムを利用する時は施設管理者にお問合せ下さい。

専用受信器を借り出して、付属のイヤホンで試聴するか、
受信可能なTコイル付補聴器なら、付属のボタンを、Mから
Tに切り替えてループの内側に着席してお聞き取り下さい。
そして、ボタンで音量調節して下さい。



聴こえの相談、補聴援助機器の展示と利用方法

HP: mimi-comm.com



例会では要約筆記通訳と補聴援助をしています

「みみづくの会」のHPスケジュール表には、
月々の例会と「おしゃべりサロン」の予定が
表記されています。

時間は自由ですので気軽に
お立ち寄りください。



難聴の程度に応じた配慮を！

◆ 難聴・聞こえの工夫

先ず、市内の耳鼻咽喉科で聴力検査を受けましょう！
野田市には約400名の聴覚障害者（手帳保持者）がいます。

伝音難聴

鼓膜や耳小骨など、主に中耳の病気で音を伝えるにくくなって起こったものです。
音が、耳にふたをしたように聞こえます。

感音難聴

内耳の感覚細胞、聞こえの神経（聴神経）、脳の中樞のどこかが原因で起こったものです。
単に聞こえにくいだけでなく、様々な歪みを生じている場合が多く、言葉の聞き違いがあります。

混合難聴

伝音難聴と感音難聴が同時に起こっているタイプです。中耳の伝音部分は補聴器で補えますが、感音部分は個人差が出ます。

難聴の分類	平均聴力レベル	日常生活上での難聴の程度
正常	30dB未満	普通の会話は不自由を感じない。 声が小さいと聴き取れないことがある。
軽度難聴	30～40dB	普通の会話には不自由しない。 ささやき声や小さな話し声が聞き取りにくい。
	40～50dB	会議の場では聞き取りが少し困難となる。 一対一の会話には不自由しないが、 聞き違いが多くなる。
中等度難聴	50～70dB	会議の場での聞き取りが困難になる。 1mくらい離れた大きな声は分かる。
高度難聴 6級 4級	70～80dB	40cm以上離れると会話が分かりづらい。
	80～90dB 語音明瞭度50%以下	耳介に接しなければ会話が理解出来ない。
ろう 社会的ろう 3級	90～100dB	耳介に接しなければ大きな声を理解し得ない。 人工内耳の手術が可能な聴力レベル
全ろう 2級	100dB以上	全く分からない。

※ 聴覚障害の等級に5級はない

・難聴の程度とその対応方法について

軽度 集音器、補聴器、マイク＆スピーカー

中等度 補聴器、難聴者用スピーカー、イヤホン、文字表示、筆談、ノートテイク
ヒアリングループや難聴者用スピーカー等の補聴援助機器の利用

高度 高度難聴用補聴器、人工内耳、手話、筆談、要約筆記、補聴援助機器を利用
※各種専用の受信器や適用するイヤホンが必要になる

- ・会話は1m以内、周囲の環境に左右される（雑音、早口、複数人との会話は避ける）
- ・難聴者自身が対応の配慮・協力を仰ぐ。出来るだけ自分に合った配慮をお願いする。
- ・対面での会話は「ゆっくり・はっきり・近寄って顔を見合わせ口元を見せて」